

## 内海産のりにPR文字

「ふくやま地産地消の日」の29日、福山市内の小中学校21校の給食に郷土料理のうずみが出た。今回は内海町産のりにうずみをPRする文章をプリントした食べられる「のりPOP広告」が初登場。児童生徒たちは目を輝かせ、ふるさとの味を満喫した。



### 児童生徒 ふるさとの味満喫

のりPOP広告は、市内の業者がうずみの普及のため、ことし開発した。食品カルシウムで「掘り出せ！ 旬の福く福山うずみく FUKUYAMA UZUMI」と白字で書かれている。

新涯小(川村誠校長)は、収穫期を迎えている地元産のクワイの入ったうずみが出された。2年4組では、栄養教諭の末永久恵さんがうずみの由来や正しい食べ方を説明した後、児童は一斉に「いただきます」。具材が入った汁わんに自分のご飯やのりを載せ、うずみを完成させると、おいしそうに頬張っていた。

2年梶畑彩夏さん(8)は「字が書いてあ

るのりは初めて見た。うずみは大好き。もっと食べたい」と話していた。

市内では米飯給食が始まった1990年から年1回程度、うずみ給食を実施。今回は県内産いりこだしを使うなど味付けを改良し、他の小中学校でも順次実施している。

(長瀬庸一)

クワイの入ったうずみを頬張る新涯小の児童